

日本における心理学関係 Web サイトの 開設状況について

岩 橋 俊 哉

Perspective of the Web sites related to psychology in Japan

Toshiya Iwahashi

I. はじめに

最初に、ワールドワイドウェブ（WWW：World Wide Web）でのサイトをメディアとして見た際の重要な特長を整理しておきたい。1）即時応答性，2）開放性，3）情報発信の費用の低さである。

1. 即時応答性については，WWWでの情報公開では，印刷物に比べて，入稿，校正，印刷，印刷物の流通などといった作業時間が大幅に短縮できる。これは3とも関連するが，印刷物としての配付費用が不要なため低コストで情報発信できるという特長もある。加えて，即時にフィードバックを得る方法が存在するということである。まずは2種類の方法がある。電子メールと，フォーム（後述）の機能を用いた，データ送信である。このメディアでは，必ずといっていいほどコンピュータが介在するので，自動化もしやすく，その後の加工も楽である。また印刷物との連携でも，PDF（Portable Document Format）という標準的な書式があるおかげで，レイアウトが整った書類の書式ファイルをダウンロードし，印刷した後，文字を書き加えて提出するなどといったことが容易にできる。

2. 開放性については，2つの側面がある。ひとつはネットワーク（インターネットの特長であるが）を通じて誰でも情報を閲覧できることである。意図的に制限しなければ，インターネットにつながった端末さえあれば，誰でもその情報を閲覧することができる。2点目は主要な仕様や機能が標準化されていることである。そのほとんどをライセンスを気にすることなく利用することができることである。しかもその中身（ソースコード）が完全に公開されていることである。これにより，誰でもその気になれば，インターネットの基礎部分にアクセスすることができ，より有効な使い方ができる。

3. 情報発信の費用については、他のメディアに比べると格段に低コストではないかと思われるが、将来的に見ても減少傾向にある。ハードウェアは非常に安価になり、かつソフトウェアは、無償で提供されているものが多くあるので、情報の発信費用は、かなり低く押さえられる。この場合コストのほとんどがサイトの管理費等の人件費ということになる。これについても状況は変わりつつあり、以前に比べて専門性という敷居はだいぶ低くなっている。またサーバーの管理費用も、学術的なものならば、かなり低く押さえることができるようになってきている。

以上の三つの特長は特に学会などの非営利の学術団体にとっては、大きなメリットになる。ワールドワイドウェブのシステムは、元来インターネットの学術的利用を促進するために考案された仕様と技術であることから、当然ともいえるが。ただ、問題点がないわけではなく、特に大きなものとして、他人になりすましたり、他人によるデータの改ざんなどを防ぎにくいというセキュリティの甘さであろう。これは本人かどうかの確認がパスワードによるものだけであるという仕組みによる。この点に関しては、インターネットが商用で多く利用されることになったことで積み重ねられた多くの経験から、データの暗号化技術などの開発と実装によって、かなり克服されている。また学会などの非営利団体では、クレジットカードの番号のような金銭に関する情報、プライバシー情報などをほとんどやりとりする必要がないので、その性質からもこのタイプのセキュリティは学術サイトでは大きな問題にはなりにくいと考えて良いだろう。

Ⅱ. WWW の技術的側面

それでは、このような特長は、どのような技術によって支えられているのだろうか、ワールドワイドウェブを技術的な面からみてみたい。ただし、ここでは、ブラウザの側を中心に述べることにする。サーバー側の技術は多くは高度な訓練を受けた専門家の役割であるため、ほとんどの場合、サーバー管理に関しては、専門家以外が行う可能性がほとんどないからである。

WWW のシステムで重要な言語は、HTML (Hyper Text Markup Language)、JavaScript である。これらの機能は非常に豊富でありながら、仕様はオープンであり、かつこれらが機能する主要なブラウザが無償で利用できることにより、結果としてライセンス等を気にすることなく自由に使用することができる。

通常、コンピューターソフトウェアは特定のハードウェアやコンパイラー等の開発環境に依存しており、異なる機種、旧機種になったコンピューターでは作動しないものがほとんどである。しかもライセンスの問題により、作成したものを自由に配布できない場合も多々ある。しかし HTML や JavaScript などの言語は、多少の修正が必要ではあることがほとんどとはいえ、特定のハードウェアへの依存が少ないので、作成したソフトウェアの資産を有効に活用することができる。また、無償で利用できる開発環境も複数存在し、しかもこれらは十分に優れたものである。問題点は、ブラウザの種類によっては、動き方が異なることである。ただ、大抵のブラウザは無

償で手に入れることができることから考えると、大きな問題ではないだろう。

HTML の機能・仕様

本来は文書の構造を示すことが主眼であるのだが、ネットワークの要であるハイパーリンクの設定、画像表示、フォームを用いたユーザーからのデータ送信の機能の他は、多くの場合ブラウザで文書をレイアウトするための書式設定に使われているのが現状である（Cascading Style Sheet = CSS などの仕様と機能が実装されたことで、レイアウトの設定の役割は、こちらが担うことになったが、実際にはその移行は徐々にしか進んでいない）。

JavaScript の機能

HTML では不可能であったプログラミング的要素を追加する機能を持った簡易言語である。もともと代表的なブラウザ Netscape Navigator での表示をコントロールしたり、HTML の機能を補って、データの閲覧をより快適にするための言語として開発されたものであるが、それが W3C (World Wide Web consortium) によって標準化され、標準言語として使われるようになったものである。名前は似ているが本格的なプログラミング言語である Java とは異なり、まったく別物である。またブラウザの中でしか動かないなどかなり制約がある。とはいってもウィンドウ制御、計算の機能、キー入力の取得、コントロールなど心理学領域でも、コンピュータを用いた実験のかなりのものはこなせる程度の能力を持っている。グラフィック能力、音の制御に関しては、他のプラグイン機能の助けを借りないといけないとはいえ、時間に厳密でなければ、かなりの種類の実験ができると思われる。さらに統計処理ができる程度の計算機能もある。全体として考えると、効率が良いかどうかは別としても心理学のデータ収集から最後の処理まですべてまかなえる能力を持っているということである。

Ⅲ. 学術利用の Web サイトのあり方

1. デザイン

いわゆる商用サイトについては、デザインと内容の両面から、安全性以外にも、実際上の問題として、多くの検討が成されている（伊藤弘行・横井弘；2001，上木真一・小栗一夫；1999，Mark Pearro [茂出木謙太郎訳]；2001，Steve Krug [中野恵美子訳]；2000）。ここでは、心理学の学術利用サイトについて考察することにするが、学術情報に関しては学会の性格もあり、単純に比較することには無理があるかもしれない。

とはいうものの、学会サイトの役割は、その学会の広報という面から見ると、外部に開かれている窓口として、学会の案内、公式見解を述べる場、会員獲得という意味でどのような学会においても共通に重要である。たとえば、一般向けとしては、会の主旨、会員検索、入会案内、大会案内、質問、論文情報などである。また会員向けとして会議室、ニューズレター、（メーリング

リスト), 公募情報等である。

2. 内容

米国においては, アンケート実施, 実験用ソフトウェアの配付など実験的な試みがかなり存在する(岩橋2001)。これは技術的には高度なものではなく, データの安全性が特に重要でなければ, 比較的簡単に実施できるものである。国内でもいくつかの試みは成されているようであるが, まだ大きな流れにはなっていない。

a. どのようなデータが配信に向いているか

コンピュータを利用するという点において, まず統計処理についての情報があげられる。心理学以外のものも含めると, 実際かなりの数の情報提供サイトが存在する。JavaScript によるプログラムを紹介しているサイトも多くある。また統計処理は他の学問領域でも用いられているので心理学以外でも参考となる情報が多い。

その他のデータベースとしては, まず学術雑誌の掲載論文が挙げられる。稀に電子書式中心の雑誌も存在するが, 多くは紙に印刷されたものが中心である。

会員検索の機能によって, 特定の条件を満たす研究者を捜せるようになっている学会もある。研究者の検索は国立情報学研究所(Nacsis-IR)のデータベースでも可能であるが, 有効な検索方法という点, 学会として管理できるという点では, 学会内にあるものも重要であるかもしれない。ただしその臨床心理系の学会など, その内容から患者のプライバシーへの配慮などの点から, 学会が持っている情報を積極的には公開しにくいと思われる学会もあり, 一様に公開が是であるとはいえない。

IV. 2002年9月の時点での心理学会のサイト開設状況

(表1 参照)

開設状況とその内容

主要な学会のサイトと内容を表1にまとめた。心理学会の中で主要と思われる学会であっても必ずしもサイトは存在しないものもある。また開設していてもごく基本的な情報のみで, サイトを重要視していないことがわかる学会もある。また逆にサイトでの情報公開に意欲的な学会もいくつかある。ただ学会にはそれぞれ性格があり, 専門性が強い, あるいは臨床系の学会のように研究結果を公開しにくいという理由から, 一般の人々の閲覧をあまり望まないものと推測される学会も存在する。

情報を見せるというデザインのレベルでは, 心理学の総合サイトというべきものが必要であることを実感した。学会によっては, いろいろな優れた試みがあるものもあるが, これらの試みがうまくリンクされ情報として提示されていないと埋もれてしまうことがある。リンクの仕方を工

表1. 心理学会のサイトと公開されている情報

学会名	基本情報			学会活動		データベース			会員への広報		資格情報	リンク	その他
	学会の主旨・会則、入会案内	役員名	会員検索	年次大会等	ニュースレター	研究のツール	雑誌論文関連 データ	公募情報	研究助成				
日本心理学会	○	○		○	×	×	学位論文(一部)	nacsisにリンク		認定心理士	心理関係学会	投稿コーナー	
日本性格心理学会	○	○		講習会、公開シンポジウム、大会	Web	心理実験プログラム、心理尺度とデータ	学会誌の目次は、Web上に、国立情報研究所電子図書館サービスに大会論文集と学会誌を収録	×	×	心理関係資格へのリンク	心理学関係他	関連図書紹介	
日本発達心理学会	○	○		○+他学会	電子メール配信	×	雑誌目次	×	×	臨床発達心理士	学術雑誌論文目次、和文、欧文、関連学会、統計...	論文原稿作成手引き、会員向け情報訂正ページ	
日本心理臨床学会	○、Q and Aあり	委員長など一部		研究集会	Web上会員専用	×	×	×	×	臨床心理士	×	×	
日本応用心理学会	学会の紹介文	○		○	Web	×	雑誌目次	×	×	×	×	×	
日本社会心理学会	○	○	○	○	×	×	雑誌目次、要約(一部)	専任教員	○	×	心理、他、会員のサイト		
日本犯罪心理学会	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	犯罪心理学関係リソース集	講議を開講している大学の紹介	
日本動物心理学会	○	○	×	○	×	×	雑誌目次	×	×	×	×	×	
日本理論心理学会	○	○	×	○	×	×	雑誌目次	×	×	×	心理関係学会		
日本人間性心理学会	○	○	×	○+研究会	Web	×	雑誌目次、英文目次と抄録	×	×	×	心理関係学会		
産業・組織心理学会	○	×	×	○+研究会	×	×	×	×	○	×	×	×	
日本催眠医学心理学会	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	関連学会		
日本基礎心理学会	○	○	×	○+研究会	×	×	雑誌目次	×	×	×	心理関係学会		
日本交通心理学会	○	×	大会発表者一覧	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
日本行動分析学会	○	×	一部	○	Web	×	行動分析学研究総目次、一部抄録 全文は Nacsis-ELS	×	×	×	関連情報	行動分析が学内および海外、べる大学等の書籍・文献、行動分析用語集	
日本健康心理学会	○	○	×	○+研修会	Webでは目次のみ	×	雑誌目次(画像データ)	×	×	認定健康心理士	関連学会		
日本感情心理学会	○	○	×	×	×	×	雑誌目次(要約は画像)	×	×	×		会議室(掲示板)	
日本臨床動作学会	○	○	×	○+研修会	×	×	×	×	×	臨床動作士、認定動作士	関連学会		

夫しないと情報を検索しにくいように思われる。全体をまとめるサイトの重要性を感じた。特に臨床系の学会のように、一般向けと会員向けを明示するということも良いかもしれない。何々を学べる大学という情報が公開されたサイトがいくつかあり、他との情報の連携という意味で期待できる。

国内の心理学雑誌に関しては、本文がサイトなどに掲載されているものはごくわずかである。ただ、雑誌の目次に関してはかなりの数がサイトで公開されており、ほとんどが簡単に検索できるようになっている。

特徴的な資料

研究や実験に用いることができるソフトウェアは、形式としてはもっとも向いている種類のものであるが、性格心理学会の中にアーカイブがある以外は学会のサイトでは見られない。

公開データベースの例としては、学会ではないが、大阪商業大学比較地域研究所では日本版 General Social Surveys (JGSS) を公開している。[<http://jgss.daishodai.ac.jp/>] 雑誌「教育心理学研究」に関しての、教心研レビューは、信州大学のページの中に公開されている。[<http://zen-koji.shinshu-u.ac.jp/mori/kr/krhp-j.html>] 歴史的資料については、これもふたつの大学に見られた。京都大学文学部心理学古典機器博物館 [<http://face.psy.bun.kyoto-u.ac.jp/museum/>] と、東北大学文学部心理学研究室古典機器展示ページである。

メーリングリスト, メールマガジン

a. メーリングリストは、規模については確認できても、その内容については、ある程度長期にわたって参加しないとコメントしにくいので、ここでは紹介に留めることにする。

「心理学基礎」, 「行動分析学」, 「心理学とインターネット」, 「若手音楽心理学研究者 ajpom」, 「進化と社会と心理学」, 「Psy_Mailing list」, 「SCP-ML (Social and Clinical Psychology メーリングリスト)」, 「時間的展望研究に関心を持つ心理学研究者のメーリングリスト」

b. メールマガジン会員向けとして、発達心理学会のものがある。

5. 学会以外の情報源商用プロバイダーのサイトなど

商用サイトの「FreeML」のサイトにあるメーリングリストにも心理学関連のものがある。これは、エキサイトでも検索できる。

心理学ショートショート <http://www.shinrigaku.com/>, アットニフティの中の心理学フォーラム, 掲示版では、「2ちゃんねる」のサイトなどがある。また、メールマガジンのサイト「まぐまぐ」内で、メールマガジンが複数発行されている。

V. まとめ

実は、常にそうであるのかもしれないが、心理学会のウェブサイトは過渡期にあるのではないかということを感じた。技術的な可能性は大きく、画像や音声を利用したデータベースを公開したり、実験を実施することが可能になってきている。実験やアンケートで、研究室等の連携による大規模なものも期待できる。技術的にはまったく問題はないので、適切な計画が存在すれば可能である。だが、それを利用して、何かを行なうにはまだ時間が必要なようである。WWWは、従来の紙中心のメディアに比べて、利点が多いのであるが、なかなかそこからの移転は進まないのが現状である。とはいっても、従来の紙メディアにもメリットがあり、うまく組み合わせて補完しながら利用するのが得策なのだろう。

Abstract

It was surveyed, and the Web sites of psychological societies in Japan was examined about that design and the contents. A basic function appeared on the main point of the academic meeting activities, the academic meeting, a purpose, the entrance guidance, and so on in almost all the academic societies. But, as for, a difference was presumed in such cases as the contents of other information, the information that for example it is introduced to the public, the interchange function of the member with the net. Academic Web sites have various possibilities so that it may be done at the business sites when technically it is seen, too. The Internet can expect future development because originally it faces the use of the learning information.

文献

- 伊藤弘行・横井弘之 (2001)「Web デザインの仕事術」, 毎日コミュニケーションズ。
岩橋俊哉 (2001)「心理学研究のためのインターネット」大東文化大学紀要, 39, 157-164。
上木真一・小栗一夫 (1999)「Web 制作の仕事術」, 毎日コミュニケーションズ。
Mark Pearrow, 茂出木謙太郎訳 (2001)「Web サイトユーザビリティハンドブック」, オーム社開発局。
Steve Krug, 中野恵美子訳 (2001)「ウェブユーザビリティの法則」, ソフトバンクパブリッシング。

URL 一覧

・心理学会

日本心理学会, 日本臨床心理学会, 日本応用心理学会, 日本社会心理学会, 日本犯罪心理学会, 日本動物心理学会, 日本理論心理学会, 日本人間性心理学会, 産業・組織心理学会, 日本催眠医学心理学会, 日本基礎心理学会, 日本学生相談学会, 日本リハビリテーション心理学会, 日本交通心理学会, 日本発達心理学会, 日本行動分析学会, 日本健康心理学会, 日本性格心理学会, 日本感情心理学会, 日本臨床動作学会

・心理学会以外

国立情報学研究所 <http://www.nii.ac.jp/sitemap-j.html>